

## 第6回「かごしま活性化フォーラム」 意見交換概要

九州財務局 鹿児島財務事務所

奄美大島等の「世界自然遺産」への登録やコロナ禍からの復調といった明るい話題が増えたことを踏まえて、「観光」をテーマに設定。観光を軸とした内容でポストコロナ時代における社会的・経済的課題や、その解決への道筋について基調講演を頂いた後、奄美大島の有識者や離島地域等のオブザーバーを交えて、奄美市の会場から対面とオンラインのハイブリット方式で意見交換を実施。

### ○ 奄美大島の有識者の主な発言

- 観光については、世界自然遺産に登録されたことで注目が集まり、手ごたえを感じている。一方で、自然を売りにしている中、オーバーツーリズムによってそれが壊れてしまったりは何もなくなってしまう。奄美の価値をどう守るかという点について、地域住民と知恵を出し合って取り組んでいきたい。
- 人材不足は賃上げによって解決に向かうといった楽観的な話ではなく、永遠の課題と認識。良質な人材の確保が難しいのであれば、自前で育てるしかない。海外では計画的に移民を受け入れるような政策をとるところもある。
- 観光業界に携わっており、「従業員の幸福」については重要なテーマと認識。働いている人の幸福度が低いことが人材不足の要因ではないかと感じることがある。
- 島を出た若者が再び島に戻れるような環境作りが必要。実態としては、仕事はあるが給与が見合わない、同世代の若者がいない、遊ぶ場所がないといった声があり、若年層にお金が回るよう企業の活性化を図っていきたい。

### (講師のコメント)

- 企業の人材確保の仕組みについて、必要な人材の全てを自社で抱え込むところが多い。時代の変化に合わせて労働力の分配をどう変えていくかを考えていく必要がある。
- 奄美大島（離島）という地理的特性を考えると、島外人材のフルタイム勤務は難しいとしても、週の数日であれば働ける人材が出てくる可能性はある。この形態を現地の企業が受け入れられるかどうか。このような労働力のシェアを受け入れられるのであれば、住宅や交通をシェアすることも視野に入れることができるのではないかと感じる。その仕組み作りは、行政機関や金融機関が連携して取り組んでいく必要があると思われる。

## ○ オブザーバーの主な発言

- 東京都島しょ地域で抱えている課題は奄美群島と全く同じ。地域の付加価値をしっかりと見極めた上で、どのように観光振興や地域活性化を図るか、また、最終的にどのように関係人口の創出、移住・定住に繋げるか、ということデザインしていくことが大切。しかし、本来の旗振り役である行政機関は手が回らない状態。
- どのような方が（島外から）奄美に来て働いているかを考えると、奄美に職場を持つ企業や教員、公務員といった方々が挙げられる。奄美地域で働き続けるのではなく、人生の一時期を奄美で過ごす、転勤で奄美に行くというように、内地（本土）も含めて勤務区域を広域化する仕組みを考えた方が、奄美に大企業を作るより可能性があるのではないか。

### （講師からのコメント）

- 離島に生まれ育った人と外部から転入した人、それ以外にも産業間や世代間等、相互理解には時間がかかる。これはどの地域にもあることで、長い時間軸でコミュニティを作っていくしかない。



（開会挨拶・鹿児島財務事務所長）



（会場の様子）



（オンラインの様子）



（基調講演・日本総合研究所 山田理事）